

# 2009年度・平成21年度 事業報告書

2009年・平成21年4月1日～2010年・平成22年3月31日

2010年4月1日

学校法人山口学園  
**くずは青葉幼稚園**

<b>目次</b>		<b>2009年度・平成21年度 くずは商業幼稚園 事業報告</b>	
第1節	法人・幼稚園概要	3	page
第2節	2009年度・平成21年度 幼稚園運営指針	4	page
	経営理念	4	page
	本学園の使命	4	page
	教育理念	4	page
	2009年度 教育指針・保育指針	5	page
	2009年度 異年齢児による教育活動の報告	5	page
第3節	自己評価の取り組み	7	page
第4節	子育て支援事業	7	page
	預かり保育	7	page
	園庭開放（未就園児子育て支援）	8	page
	課外教室	8	page
第5節	教育環境設備の充実	8	page
第6節	納付金の改訂	8	page
第7節	経営改善計画の策定	9	page
	平成20年度策定の「経営改善計画」の取り組み実績と今後の課題のまとめ	9	page
第8節	大阪府私立幼稚園経常費補助金	10	page
第9節	平成21年度安心子ども基金特別対策事業	10	page
第10節	枚方市 / 平成21年度幼稚園幼児教育助成モデル事業	10	page
第11節	保護者交付各補助金	11	page
第12節	組織運営体制	11	page
	理事長・理事会の役割と責任	11	page
	幼稚園運営体制	11	page
第13節	教員の資質向上	11	page
	園内における保育研究	11	page
	園外における研修	12	page
第14節	園児健康管理	12	page
第15節	職員健康管理	13	page
第16節	幼稚園行事（事業）の大要実施報告	13	page
第17節	学事報告	13	page
	平成21年度 学籍詳細	13	page
	平成21年度 就学小学校一覧	13	page
	学籍の推移と平成21年度学籍 [資料]	14	page
第18節	沿革	15	page
第19節	財務報告	17	page
第20節	その他の報告	17	page
	未就園児教室の開講	17	page
	未就園児（在園児）園庭開放の実施	17	page
	小学校との連携・交流	17	page
	ホームページの更新（情報公開）	17	page
	インフルエンザ罹患による「学級単位の臨時休業措置」による、給食費の返戻	18	page
	2009年度通園バス運行	18	page
	2009年度給食実施状況・食育の取り組み状況	18	page
	園児制服の完全変更	19	page

## 学校法人山口学園くずは青葉幼稚園

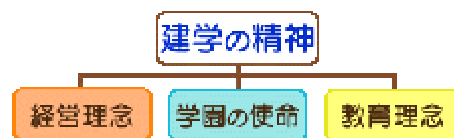
### 2009年度 / 平成21年度 事業報告書

#### 1. 法人・幼稚園概要

設置者	学校法人山口学園
学校名	くずは青葉幼稚園
所在地	枚方市北楠葉町38番1号
学校長氏名	園長 山口尚志
法人代表者	理事長 山口亨 副理事長 山口尚志（法人の代表権を有する副理事長）
理事会	理事7名、評議員15名、監事2名 定例理事会 2回開催（決算5月・予算3月、承認） 臨時理事会 1回開催（H21年度経営改善計画継続承認、11月）
定員・実員学籍	定員400名 実員151名（平成21年5月1日時点）
職員構成	平成21年度 園長1名、主任教諭1名、教諭9名、園務員1名、嘱託バス運転手2名、 体育講師1名 合計15名（平成21年度新規教員採用2名。前年度末退職教員2名）合計15名） 平成22年度 園長1名、主任教諭1名、教諭10名、園務員1名、嘱託バス運転手2名、 体育講師1名 合計16名（平成22年度新規教員採用2名。前年度末退職教員1名）合計16名）
建学の精神	「たくましく人間性豊かな子どもをめざす」
その他	以下の項目は、ホームページ [ <a href="http://www.k-aoba.ed.jp/">http://www.k-aoba.ed.jp/</a> ] にて詳細公開 (本事業報告書にての記載を略) 建学の精神・教育方針 / 指導方針・学園環境・保育概要・沿革(本書標題 18・P14に掲載)・2009年度教育指針(本書標題 2 - ・P3～6に掲載)・学費納付金・預かり保育・情報公開 [ 幼稚園概要(事業報告・財務状況等)・課外教室・食育取組及び給食内容・感動の声(保護者意見集)・推薦の言葉・保護者交付各補助金(2009年度交付実績は、本書標題 11・P10に掲載) ]
その他	法人及び幼稚園連絡先 電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944 メールアドレス info@k-aoba.ed.jp 園章 

## 2 . 2009年度・平成21年度 幼稚園運営指針

開園三十二年の実績を基盤に本園幼児教育の推進と充実を図るため、併せて「建学の精神」をより太くするため、年度初め（2009年度）に「経営理念」「学園の使命」「教育理念」の三つの柱を設定し、運営指針を定めた。この指針に基づき幼稚園運営を行なった。また、学年ごとに詳細の教育目標を設定、これを全教員で確認し併せて幼稚園全体の教育内容の充実を図れるよう、意志統一した。



### 経営理念

多様化、複雑化する社会構造と教育構造の真意を捉え、次代を担う子どもの生育を真摯に考え、変化を先取りする。また保護者ニーズの真意を捉え保護者との連携を構築し幼稚園教育の満足度を高めることをねらいとした。教職員は、業務並びに事業全てに対して「一生懸命な姿勢」を貫き、結果のみを重視することなく過程をも重視した教育を実践することを理念とし設定した。

教育水準の向上を図り、園の目的を実現するため教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検及び評価（学期毎）を行い、その結果を新年度に公表することとした。（2009年4月、2010年4月公開）また、園の教育活動その他の学校運営の状況について保護者等に対して積極的に情報を提供。さらに危機管理体制を構築し、安全な幼児教育環境を設定した。

公開する内容 = くずは青葉幼稚園・学校評価

財務状況（消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録）

### 本学園の使命

保護者に文書並びにホームページを活用し、子育て情報、教育情報等を積極的に発信し、家庭・保護者教育力を高めることが成されるよう努力した。また、園庭開放を4月度から6月度については月2回の土曜日を開放日とし、7月以降年度末3月までは、月1回の園庭開放を実施し、未就園児保護者も含め家庭との連携を深め、子育て支援を充実させた。

### 教育理念

従来の「幼児体育・健康領域」の重点指導はもとより、領域「人間関係」の重点的指導並びに環境構成に留意し「異年齢児」による総合活動を2008年度以上に推進した。その活動日・教育日数を年間延べ3週間これに充てた。また、2009年度教育指針・保育指針を全教員で年度初めに確認し（詳細の本書記載略・学校評価P3～5に記載）共通理解のもと実践に取りくんだ。

## 2009年度 教育指針・保育指針 (unit 2 - - 1)

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を整えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。2009年度は、それぞれの学年において詳細の「教育目標」を設定し、保育に努めた。詳細の学年別教育目標は、「2009年度/平成21年度くずは青葉幼稚園・学校評価P2～5掲載」]

年長学年は、思いやりの気持ちをもって友だちと関わり、思いを伝えあう大切さを感じるとともに色々な活動に意欲をもち、目標に向かって精一杯取りくむ。

年中学年は、集団であそぶ楽しさを味わい、自分の力を発揮しながら何事にも最後までやり遂げる気持ちを持つ。

年少学年は、基本的な生活習慣を身につけ色々な活動に意欲的に取り組み、友だちとあそぶ楽しさを味わう。

全学年・幼稚園全体として異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定した。異年齢の友達に親しみをもち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。すすんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

## 2009年度 異年齢児による教育活動の報告 (unit 2 - - 2)

### 入園・進級当初 [4月・5月]

教育保育目標	異年齢の存在を知らせ知り親しむ。 まわりの人へ親しみをもち 自分の知っていること、できることを喜んで知らせようとする 自分たちができることを考え行おうとする
教育活動	園内めぐり 全学年 給食準備手伝い 全学年 食育指導 全学年・市民の森散策 年中・年長

異年齢の友達に親しむ [6月・7月・8月]

教育保育目標	異年齢の友達に興味をもち一緒に遊ぼうとする		
	異年齢の友達に手伝ってもらいながら自分のことをしようとする		
	異年齢の友達にどのように伝えるか考え、接する		
	異年齢の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ		
教育活動	歯磨き指導	ダンスを踊る	笹飾り 全学年
	異年齢チームでの活動	年中・年長	市民の森散策 年中・年長
	ディサービスセンター訪問	年長	夏期保育 ・夏期預かり保育

異年齢の友達との関わりが深まる [9月・10月・11月・12月]

教育保育目標	異年齢の友達との関わり方を知る		
	自分の思いを友達に伝え友達の思いにも気づき受け入れたり応えたりする		
	異年齢の関わりの中でリーダー的存在となり遊びをすすめる		
教育活動	運動会(異年齢ゲーム・異年齢リズム) 全学年		
	10月異年齢活動(運動会ごっこ、市民の森散策、指人形づくり) 全学年		
	いもほり(年中・年長)	交通安全指導 全学年	七五三参拝(雨天中止)
	ディサービスセンター訪問 年長	11月異年齢活動	
	市民の森散策 全学年	紙芝居読み聞かせ 全学年	

異年齢の友達との活動に安心感をもつ [1月・2月・3月]

教育保育目標	異年齢の友達に積極的に関わり、友達の思いに気づき行動する		
	今までの経験や関わりに自信をもち、色々な人と関わる力へとつなげる		
教育活動	朝の集いゲーム	お正月遊び	一日入園 昼食会
	誕生会司会進行・誕生会音楽隊の伝授	お別れの集い 全学年	
	異年齢保育(誕生会をみんなでつくって祝う) 年長		
	年長児へのプレゼントづくり	年少・年中	卒園製作 年長

異年齢保育は、人と関わる力を育み、経験の中で人への優しさやいたわる心を育てるということを確信した。園児は、子ども同士の関わりとたくさんの経験の中で「やってあげたいと思う心」「やさしくされて嬉しいと思う心」は「人と関わる力」となった。そして新しい人間関係を築く第一歩となった。

(次page続)

年間を通し、「教育目標・ねらい」を設定し取り組んだ。これらの幼稚園における「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わり方が、さりげなく自然になった。異年齢児の交流は、決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると教員一同再認識した。友だちの思いに気づく、友だちのことを思いやる、それが「かかわる力」であり、友だちやまわりの人に助けられながら、特に年少児達は、少しずつ身につけはじめた。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、在園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されたものと認識している。

### 3. 自己評価の取り組み (2 - 関連)

評価項目に沿って自己点検自己評価を学期毎に行い、教員自らが客観的に指導や子どもとの関わりを省みた。また、学校関係者評価として本園父母会役員14名(H21年度役員・H22年度役員予定者)の方にその内容を説明し、意見を求めた。その結果、「特に指摘すべき事項・内容はない」旨の評価が成された。

これを2008年度同様(2009年4月公開)新年度・2010年4月に「学校評価・自己評価」として、ホームページにて公開を行った。

### 4. 子育て支援事業

#### 預かり保育

17時30分まで園児を預かり異年齢児による教育活動を実施した。また、7月及び8月夏期長期休暇中(夏休み)に14日間、また2009年度は新たに12月に2日間、9時より17時まで預かり保育を実施し、支援事業として位置づけた。

通常預かり保育 4月～3月	
預かり保育日数	年間168日
預かり保育延べ利用園児数	3019名
一日平均園児数	17.9名

夏期預かり保育 8月	
預かり保育日数	14日
預かり保育延べ利用園児数	650名
一日平均園児数	46.4名

冬期預かり保育 12月	
預かり保育日数	2日
預かり保育延べ利用園児数	83名
一日平均園児数	41.5名

## 園庭開放（未就園児子育て支援）

園庭開放を4月度から6月度については月2回、7月以降年度末3月までは、月1回の園庭開放を実施した。未就園児並びに入園児、在園児保護者との家庭との連携を深めた。尚、参加者は一回のみの参加者、全回参加者も含め144名、全園庭開放日（12日間）に来園者総数は480名となり、各園庭開放日に40名平均の未就園児が来園となった。継続して毎月参加された方は、約80名となり、本園入園を希望される方が65%の割合を占めた。

また、過去3年間で園庭開放参加者、説明会参加者の対比では来園者数が増加し、入園願書提出者が増加となった。これは、「入園したい」という意識が動いたと判断。園庭開放での幼児と保育者の関わりをより広く実践し、幼稚園に対する保護者意識を高めるよう環境を構成したこと未就園児子育て支援が有効となり、幼稚園選びの一助となった。

	2006・H18 (07・H19入園)	2007・H19 (08・H20入園)	2008・H20 (09・H21入園)	2009・H21 (10・H22入園)
園庭開放参加者	121名	97名	約80名	144名
9月入園説明会・園庭開放参加者	70名	62名	56名	86名

## 課外教室

継続して、課外教室を展開し「子育て支援事業」として位置づけた。募集時期等の適正化を行い、幼稚園生活と課外教室の連携を執るようにした。

## 5．教育環境設備の充実

2009年度・平成21年度、春期休業中（春休み/2009年3月20日～4月2日）に遊戯室のフロア全面改修工事を行った。これは、全園児はもちろんのこと保護者も含めて「集う場」でもあり、入園式・卒園式をはじめとする多くの行事の事業を開催実施する重要な施設であることより、改修により、快適な空間を整えた。

尚、2009年度末（2010年3月23日～3月末日）に年中園舎保育室出入口ドアの安全改修、並びに1階保育室6室の手洗い場（水道カラン）の全面改修工事を実施。併せて保育室6室の室内塗装改修を行った。また、花壇6基の安全改修を実施した。これらの改修は園児の安全衛生環境を整え、今後の幼稚園教育の有効を目指すものである。[当該改修工事は、一部の工事を2010年4月以降に執り行うことより、一括して2010年度・平成22年度の財務支出となることにより、当該経費は2010年度決算に反映することとなる]

## 6．納付金の改訂（入園一時金施設協力金の兄弟姉妹関係児減免措置）

保護者の経済的負担を最小限に抑え、兄弟姉妹関係児の保育料減免措置、併せて空調費の減免措置も実施している。この趣旨に則り、さらに平成21年度入園者より入園一時金の内、施設協力費2万円を在園並びに卒園の兄弟姉妹関係の入園者[納付義務者=保護者]に対して減免措置を執った。[園則変更済]



## 7. 経営改善計画の策定

標題の「経営改善計画」を平成20年度において向こう5年間の計画を策定した。

従前より経費節減に努め、平成19年度と平成18年度の対比では、管理経費全体で約2800万円の節減を行った。その主な要件は、経費節減並びに減価償却額の減少となり、管理経費支出を抑制、さらに修繕費支出を抑えたが、平成20年度には、保育室改修工事を実施し平成20年度決算では、大幅に支出が決算上表示されることとなった。経営改善計画の根幹は上記の経費節減と学籍園児数の増大であり、今後の園児募集活動内容の充実を図る旨の計画を立案した。

また大阪府私学助成カットが、平成20年度に打ち出され、経常費補助金の削減となったが、配分基準により精査すると、園児減少による園要素の単価減少（140名以下の配分単価/平成20年度本園実員は139名の構成要件）が大きく影響したものと判断できる。尚、経常費補助金の配分要素として「経営改善計画」の策定により、40万円の配分要件を満たし本園においてもこれを策定し、経常費補助金の増額が得られた。経営改善計画は、平成20年度から平成24年度の五年間についての計画を策定した。

上記、を受け、2009年度・平成21年度において継続して「経営改善計画」の修正を行いこれを継続し、幼稚園運営・経営の安定化を目指した。

以下に「平成20年度作成の経営改善計画・平成21年度経営改善計画・修正書」記載のまとめの項を記載する。

### 平成20年度策定の「経営改善計画」の取組み実績と今後の課題のまとめ

報告書記載の通り、園児数拡大が重要な課題として設定し、昨年（平成20年度）の「経営改善計画」策定に至った。結果として、年間を通じての園庭開放や情報公開により、本園の内容をご理解いただいた上で入園志望が増加と認識すべきであるが、並行して本園地域では少子化若しくは保育園入園志望が多くを占める。この現況において今後も計画書にある子育て支援の対応はもちろんであるが、加えて「預かり保育の時間延長」等の整備が急務とされること予測される。然るに教職員の労働環境等の問題も存在する故、その対応には時間を要すると考えられる。園児数拡大により、教員の増員や施設整備等の支出が拡大することとなるが、本園の適正規模園児数を維持することにより、安定した経営・運営状況が構築されるものとする。今後も「経営改善計画」に則り、当該年度の修正を加えながら計画を推進するものである。平成20年度より、大阪府私学助成削減の方針が大阪府により行政改革として実践されたが、本来は経常費補助金に相当する依存することなく、本園としての教育運営を実践すべきが責務と認識するが、ここ数年の園児減少を捉えると経常費補助金の交付趣旨並びに増額が有効となるよう経営努力すべきと感じる。

尚、平成21年度より、大阪府私立幼稚園経常費補助金の新配分基準にみられる情報公開要素並びに子育て支援推進要素等により、従来に増して補助が成されることを十分に認識し、幼稚園教育運営に取り組むべきが、必然である。併せて、私立幼稚園本来の教育内容、本園「建学の精神のより充実」に向けての努力研鑽に励むべきと痛感するものである。

[ 文責 / 学校法人山口学園 副理事長・くずは青葉幼稚園・園長 山口尚志 ]

## 8 . 大阪府私立幼稚園経常費補助金

平成21年度より、大阪府私立幼稚園経常費補助金の新配分基準が改訂され、前述の「情報公開要素（財務状況）」「情報公開要素（学校評価）」また「子育て支援要素」が新設された。併せて平成20年度新設の要件、「財務状況改善要素」により、1,800千円の本園への配分が成され、合計36,992千円の経常費補助金交付と決定された。これは、平成20年度より5,799千円の増額となり、本園財務状況の厳しさに幾らかの好転となった。

## 9 . 平成21年度安心子ども基金特別対策事業

[ 幼児教育の質の向上のための緊急環境整備事業補助金 ] (安心子ども基金)

幼児教育の質の向上のため標題の補助金が創設され、本園においても申請を行った。当初、インフルエンザ流行の兆しがあり、その対策として「空気清浄機」等の設備購入を検討したが、その効果等に不確実性があるため、遊具等の修理修繕と保健衛生関係の備品購入（視力検査器・身長計・体重計等）をその申請内容とした。その結果、平成21年12月16日付を以て、326,000円の補助金交付の内示を受けた。尚、交付は平成22年5月となり、計算書類においては平成22年度決算での計上となる。

## 10 . 枚方市 / 平成21年度幼稚園幼児教育助成モデル事業

枚方市より、「平成21年度改定された幼稚園教育要領において、幼児期における教育の重要性が位置づけられ、教育要領改定の趣旨を踏まえた小学校への円滑な接続、地域や家庭との連携等、幼稚園が行う特色ある幼児教育の取り組みに対して、平成21年度から平成23年度までの三年間助成を行うことで幼稚園教育の充実を図る」左記の趣旨を以て私立幼稚園に対しても補助が成されることとなった。（上限、30万円）これを受け、本園は下記の申請を行った。

地域の自然、人材、行事、公共施設を活用し、幼児に多様な体験をする機会を提供する事業  
幼児教育の充実に資する事業（園庭開放等）以上の事業の申請により、枚方市より標題補助金30万円の交付決定となった。（2010年3月交付）

## 11. 保護者交付各補助金

私立幼稚園就園奨励費補助金をはじめとする2009年度・平成21年度保護者交付金は、以下の金員が各行政機関より補助金交付となり、本園より配分した。これにより、私立幼稚園就園児 取り分け本園の保護者負担を軽減し、幼児教育の一層の充実させる趣旨の通り達成されたと信じる ところである。

大阪府私立幼稚園保育料軽減補助金 (3歳児交付)	621,000円
枚方市私立幼稚園就園奨励費補助金(3~5歳児交付)	6,520,400円[72名]
京都府私立幼稚園保育料軽減補助金(3~5歳児交付)	357,000円
八幡市私立幼稚園就園奨励費補助金(3~5歳児交付)	1,275,800円[13名]
京都市私立幼稚園就園奨励費補助金(3~5歳児交付)	236,200円[3名]
京都市私立幼稚園就園教材補助金(3~5歳児交付)	26,000円[3名]
枚方市私立幼稚園保育助成金補助金(3~5歳児交付)	4,683,100円[132名]

(枚方市私立幼稚園保育助成金補助金は、枚方市教育委員会より直接保護者に交付)

## 12. 組織運営体制

### 理事長・理事会の役割と責任

平成21年度中においても理事長においては、体調不調が続く状況となった。然るに法人業務及び幼稚園業務内容については何ら差し障りのない処理を行い、業務を遂行している状況となった。これは、副理事長(園長)がこれに代わり理事長に詳細にわたり報告・説明を成し、法人運営について円滑化されている点、併せて、私立学校法改正の際に、本法人の代表権のある副理事長としたことより、何ら問題が生じていない現状である。

### 幼稚園運営体制

従前通り、平成21年度中においても「園務分掌規程」に基づき、業務を分掌し、合理的で機能的な幼稚園運営を図った。また「行事担当分掌」についても職員の責任と自覚のもと遂行され円滑な園運営がなされた。

## 13. 教員の資質向上

**園内における保育研究** 平成21年度、園内での「研究保育」を実施した。

1. 平成21年 6月19日「製作活動」年中教諭 新聞紙あそび 約50分
  2. 平成21年10月27日「製作活動」年少教諭 パス描画活動 約45分
  3. 平成21年12月 1日「製作活動」年長教諭 クリスマスリース作り 約45分
- それぞれの保育内容について全教諭より、指導助言等を行い総合評価を行った。当該教諭は、研究保育及び評価反省会を日々の保育に活かした。

## 園外における研修

平成21年度、園外での「研修会」に下記の通り、参加した。

	研修日時	研修内容	研修主宰者・参加者・開催場所
1	2009年8月18日	子どもを取り巻くアレルギーの現状と課題	食育推進プロジェクト事業研修会 / 主任他1名 於 / 枚方市立教育文化センター
2	2009年8月26日	子どもの成長と読みかせ	枚方市教育委員会 / 教員1名 於 / 枚方市立教育文化センター
3	2009年8月29日	幼稚園に於ける発達障がいと遅れのある子どものための行事の取り組み	大阪医科大学LDセンター / 園長、主任他9名 於 / 枚方市立教育文化センター
4	2009年12月21日～	10年経験者研修・幼稚園をめぐる最新教育事情[東京学芸大学教育学部岩立教授・国立特別支援教育総合研究所・小田理事長]	大阪府私立幼稚園連盟 / 主任 於 / 大阪医科大学
5	2010年1月7日	保護者とのより良き関わりについて	枚方市立樟葉幼稚園 / 園長、主任他9名 於 / 枚方市立樟葉幼稚園
6	2010年3月26日	大阪府私立幼稚園教育研究大会	大阪府私立幼稚園連盟 / 園長、主任他10名

## 14. 園児健康管理

平成21年度中に下記の園児健康管理を行った。

毎月（8月度は除く）身長、体重の測定

5月、9月、12月、3月において胸囲、座高の測定。

学校保健法により、右記の健康診断を実施。検尿検査5月12日、寄生虫検査5月21日、歯科検診6月3日、内科検診6月4日実施、4歳児・5歳児については視力検査を実施。

園児健康管理上において特記すべき事項

**インフルエンザの罹患状況** 2009年10月21日、園児インフルエンザ罹患により欠席以後下記の通り。

月 度	年少学年	年中学年	年長学年	当月小計	幼稚園累計
2009年10月	2名	1名	6名	9名	9名
2009年11月	0名	4名	6名	10名	19名
2009年12月	4名	1名	1名	6名	25名
2010年01月	7名	6名	1名	14名	39名

2010年1月21日以降、インフルエンザ罹患園児は無し。

### インフルエンザの罹患による学級単位の臨時休園措置（学級閉鎖）

- 1) 年長たけ組 2009年10月27日（火）～30日（金）の4日間
- 2) 年少すみれ組 2009年12月8日（火）～11日（金）の4日間
- 3) 年少すみれ組 2010年1月20日（火）～22日（金）の4日間

## 15. 職員健康管理

職員健康診断 6月25日実施

## 16. 幼稚園行事(事業)の主要実施報告

04/03	第33回入園式	09/01	2学期始業式	01/08	3学期始業式
04/10	1学期始業式	09/19	運動会	02/03	節分
05/01	子どもの日の集い	09/30	敬老の集い	02/20	生活発表会
05/15	遠足(枚方パーク)	10/14	遠足(琵琶湖博物館)	02/25	観劇
06/03	歯科検診	10/29	いもほり	03/03	雛祭り
06/04	内科検診	11/14	作品展	03/11	お別れ会
06/21	日曜参観	11/24	移動動物園	03/16	第33回卒園式
07/11	お泊まり保育	12/07	楽団公演	03/19	平成21年度終了式
07/16	1学期終了式	12/11	音楽会		
07/18	青葉まつり(夏祭)	12/18	2学期終了式		

## 17. 学事報告

### 平成21年度 学籍詳細

3歳児	53名	
4歳児	48名	
5歳児	50名	合計151名
大阪府内在籍	128名	
京都府内在籍	23名	
通園バス利用園児	110名	
徒歩通園児	41名	

2009年5月1日現在

### 平成21年度卒園児 就学小学校(就学は平成22年度)

右表の通り。2010年3月16日卒園現在

就学 小学校		たけ	ゆり	合計
枚方市立	樟葉北小学校	5	4	9
	樟葉	9	6	15
	樟葉西	2	2	4
	船橋	0	1	1
	樟葉南	1	2	3
	招提	0	1	1
	牧野	2	1	3
	西牧野	0	1	1
八幡市立	橋本	0	2	2
	八幡	1	1	2
	美濃山	0	1	1
京都市立	明親	1	0	1
	美豆	1	0	1
	第三錦林	1	0	1
学校法人(私立)	聖母学院	2	0	2
東京世田谷区	千歳	1	0	1
福井敦賀市	中央	0	1	1
豊中市立	緑地	0	1	1
中華人民共和国	蘇州日本人学校	0	1	1
	合計	26	25	51

## 学籍の推移と平成21年度学籍 [資料]

[平成22年度は4月1日現在]

年 度	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	合 計	入園児数	年度末卒園児数	納付金年額
昭和52年	-	48 / 2組	31 / 1組	79 / 03組	79名	31名	120000
昭和53年	-	122 / 3組	62 / 2組	184 / 05組	141名	62名	120000
昭和54年	-	157 / 4組	122 / 3組	279 / 07組	167名	122名	132000
昭和55年	23 / 1組	162 / 4組	150 / 4組	335 / 09組	197名	150名	132000
昭和56年	35 / 1組	190 / 5組	151 / 4組	376 / 10組	202名	151名	132000
昭和57年	44 / 1組	231 / 6組	189 / 5組	464 / 12組	248名	189名	132000
昭和58年	40 / 1組	276 / 7組	212 / 6組	528 / 14組	277名	212名	132000
昭和59年	26 / 1組	244 / 7組	237 / 6組	507 / 14組	211名	237名	132000
昭和60年	54 / 2組	206 / 6組	216 / 6組	476 / 14組	179名	216名	144000
昭和61年	42 / 2組	211 / 6組	191 / 5組	444 / 13組	209名	191名	144000
昭和62年	42 / 1組	179 / 5組	188 / 5組	409 / 11組	186名	188名	144000
昭和63年	38 / 2組	132 / 4組	160 / 4組	330 / 10組	140名	160名	144000
平成01年	50 / 2組	165 / 5組	123 / 4組	337 / 11組	184名	123名	156000
平成02年	58 / 2組	147 / 4組	159 / 5組	364 / 11組	160名	159名	156000
平成03年	44 / 2組	215 / 4組	139 / 4組	308 / 10組	123名	139名	156000
平成04年	75 / 3組	90 / 3組	126 / 4組	291 / 10組	129名	126名	156000
平成05年	34 / 2組	112 / 4組	87 / 3組	233 / 09組	80名	87名	168000
平成06年	42 / 2組	84 / 3組	105 / 3組	231 / 08組	94名	105名	168000
平成07年	60 / 3組	60 / 3組	82 / 3組	202 / 08組	87名	82名	180000
平成08年	71 / 3組	92 / 3組	59 / 2組	222 / 08組	108名	59名	204000
平成09年	42 / 2組	93 / 3組	86 / 3組	221 / 08組	76名	86名	228000
平成10年	88 / 4組	55 / 2組	90 / 3組	233 / 09組	107名	90名	228000
平成11年	65 / 3組	99 / 3組	59 / 2組	223 / 08組	90名	59名	252000
平成12年	57 / 3組	80 / 3組	92 / 3組	229 / 09組	77名	92名	252000
平成13年	66 / 3組	72 / 3組	74 / 3組	212 / 09組	84名	74名	252000
平成14年	59 / 3組	75 / 3組	80 / 3組	214 / 09組	79名	80名	252000
平成15年	66 / 3組	74 / 3組	73 / 3組	213 / 09組	82名	73名	252000
平成16年	53 / 3組	84 / 3組	73 / 3組	210 / 09組	71名	73名	252000
平成17年	52 / 3組	57 / 2組	82 / 3組	191 / 08組	60名	82名	252000
平成18年	47 / 3組	56 / 2組	57 / 2組	160 / 07組	53名	57名	252000
平成19年	53 / 3組	47 / 2組	55 / 2組	154 / 07組	57名	55名	252000
平成20年	42 / 3組	51 / 2組	46 / 2組	139 / 07組	46名	46名	252000
平成21年	51 / 3組	47 / 2組	52 / 2組	151 / 08組	57名	51名	252000
平成22年	66 / 4組	57 / 2組	51 / 2組	174 / 08組	75名	51名	252000

## 18. 沿革

和51年 1976年	5月2日 理事長・山口亨「建学の精神」を考察
昭和52年 1977年	2月22日 学校法人山口学園 法人認可を大阪府知事より受ける 4月10日 第1回入園式挙行 園地（開園当時） 合計 4249.0m <sup>2</sup> （1287.5坪） 園舎面積 402.9m <sup>2</sup> 延床面積 855.7m <sup>2</sup> 鉄筋コンクリート造り [ 保育室5室、遊戯室1室、職員室、園長室の構成にて開園 ] 学籍園児数 79名 [ 4歳児48名、5歳児31名 ] 幼稚園教育事業開業
昭和53年 1978年	開園二年を経過し、園児数増加を見込み、園舎増築を検討、計画。 学籍園児数 184名。
昭和54年 1979年	園舎増築工事完成 園舎面積 466.6m <sup>2</sup> 延床面積 874.8m <sup>2</sup> 鉄筋コンクリート造 保育室・新職員室増築。学籍園児数 274名。
昭和55年 1980年	園児数増加により、第二次園舎増築を検討、計画に入る。 学籍園児数 335名。
昭和56年 1981年	園舎増築工事完成 園舎面積 83.1m <sup>2</sup> 延床面積 139.2m <sup>2</sup> 鉄筋コンクリート造 保 育室2室を増築。学籍園児数 376名。
昭和57年 1982年	園児数増加により、遊戯室新築を検討、計画に入る。 学籍園児数 464名。
昭和58年 1983年	遊戯室増築工事完成（新遊戯室） 園舎面積 317.4m <sup>2</sup> 延床面積 317.4m <sup>2</sup> 鉄骨造 遊戯室増築。在籍数 528名。
昭和59年 1984年	コンピュータ導入し学籍管理他の処理を開始。 学籍園児数 507名
昭和61年 1986年	開園10周年記念事業として「幼児教育セミナー」開催 [ 講師：井上敏明（教育評論 家・六甲カウンセリング研究所所長）講演 ] 記念誌 タブロイド版20頁作成、園 児、卒園児に記念下敷配付。学籍園児数 444名。前年度対比 63名の園児数減
昭和62年 1987年	園児定員 500名を大阪府に申請（定員増申請）400名の認可を受ける。 学籍園児数 409名
昭和63年 1988年	学費口座引落処理をコンピュータ処理開始 [ 銀行口座振替システム運用 ] 学籍園児数 330名。前年度対比 79名の園児数減少。
昭和64年 平成元年 1989年	学費(保育料)年間、156000円に改定。 学籍園児数 337名
平成 2年 1990年	文部省幼稚園教育要領の改訂により園則変更する。就業規則等改定、労働環境の 整備を図る。学籍園児数 364名。(前年度対比 27名の園児数増)
平成 3年 1991年	幼稚園パンフレットタブロイド版8頁作成。開園15周年記念として父母会より「太 陽電池時計」寄贈。学籍園児数 307名。(前年度対比 57名の園児減少)
平成 4年 1992年	学校週5日制を導入 園則変更する（平成4年9月より実施）文部省幼稚園教育要領 の趣旨に則り少人数学級編制を採用、園則変更。（1組40名定員を35名定員変 更、3歳児は25名定員）学籍園児数 291名。
平成 5年 1993年	米飯給食を導入。学費(保育料)年間、168000円に改定。 学籍園児数 233名。(前年度対比 58名の園児減少)

平成 6年 1993年	米飯給食を導入し、給食の充実を図る。 学籍園児数 231名。
平成 7年 1995年	園地の拡大、合計 5386.1m <sup>2</sup> (1632.1坪) 理事長・山口亨 大阪府知事より教育功労者表彰 受彰 青葉スポーツクラブ創設 (スポーツクラブ開設) 第2回 枚方チャイルドサッカー大会出場 優勝 幼児体育指導を教育課程に編纂。 学校週5日制を導入の拡大、園則変更する (平成7年4月実施) 学籍園児数 202名。
平成 8年 1996年	開園20周年を迎え、諸行事等の見直しを行う。学費 (保育料) 年間、204000円に改定。学籍園児数 222名 (前年度対比 20名の園児数増)
平成 9年 1997年	預かり保育の実施、子育て支援の充実を図る。学費 (保育料) 年間、228000円に改定。学籍園児数 221名。
平成10年 1998年	夏期保育の長期化並びに夏期保育中の預かり保育拡大。 学籍園児数 233名。
平成11年 1999年	少子化対策臨時交付金 (補助金) にて園舎・保育室改修工事を実施。学費管理システムPCソフト導入。学費 (保育料) 年間225000円に改定。学籍園児数 223名。
平成12年 2000年	ホームページ開設 情報公開並びに幼稚園教育内容広報発信を開始。山口亨園長退任、山口尚志園長就任。学籍園児数 229名。
平成13年 2001年	入園願書、Emailにて入園受付開始。 学籍園児数 212名。
平成14年 2002年	食育をテーマに講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。 学籍園児数 214名。
平成15年 2003年	園舎改修 [体育倉庫、備品倉庫、年少保育室空調設備設置] 学籍園児数 213名。
平成16年 2004年	異年齢児複合教育活動の本格化 (縦割り保育) 父母会運営組織の変革。全保育室並びに遊戯室に空調設備を完備。学籍園児数 210名。
平成17年 2005年	課外教室として幼児英語教室 (ECC)、幼児プレイルーム (学研)、未就園児教室を開講。異年齢児複合教育活動 (縦割り保育) の継続。教育講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児 191名。
平成18年 2006年	開園30周年を迎える。園庭開放を実施し、未就園児子育て支援事業に取り組む 異年齢児複合教育活動 (縦割り保育) の継続。課外教室エンビツらんど開講。理事山口尚志、法人の代表権を有する副理事長就任。 学籍園児数 160名 (前年度対比 31名の園児数減少)
平成19年 2007年	園庭開放を継続実施し未就園児子育て支援事業を拡大。異年齢児複合教育活動 (縦割り保育) の継続。課外教室「こどもアートクラブ」開講。園内改修 [預かり保育室・年中園舎手洗い場・園庭西花壇・園地周りフェンスの改修] 学籍園児数 154名。
平成20年 2008年	園庭開放日を月2回とし未就園児子育て支援事業を拡大。未就園児教室キディクラブ開講。夏休み預かり保育開始。給食内容について改良改善、従来にましてアレルギー食への対応を実施。 学籍園児数 139名 (前年度対比 15名の園児数減少)
平成21年 2009年	学校評価・自己評価をホームページに公開、併せて財務状況について公開。異年齢児による教育活動のより充実に努め、その活動期間の長期化を図る。園庭開放を継続実施。夏休み預かり保育の拡大実施並びに冬休み預かり保育の実施。年度末 (2010年3月) に平成22年度向け、保育室6室改修工事 (室内手洗場、保育室ドア改修他) 並びに園内花壇の安全改修工事を実施。その他の改修工事 (屋上防水塗装、園庭境界部分塗装の各修繕工事) を実施完了。学籍園児数 151名



## 19．財務報告

2009年度・平成21年度の計算書類 [ 消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録 ] については、当法人・監事並びに監査法人公認会計士の監査の後にこれを報告・公開する。

## 20．その他の報告

### 未就園児教室の開講

2008年度に引続き、未就園児教室キディクラブを2009年4月より、12名の入会者を以て開講した。業務提携（委託）を株式会社エルステップスに業務委託し、本園と補完関係を執りながら未就園児子育て支援事業を行った。また10月より、未就園児親子教室として株式会社学研と業務提携（委託）し本園入園児をその会員として開講し、子育て支援事業とした。

### 未就園児（在園児）園庭開放の実施

2008年度に引続き、子育て支援事業として「園庭開放」を実施した。2009年4月より2010年3月までの期間、土曜日午前中の開催とし、年間継続して11日間実施。また、夏まつり（青葉まつり7月）、運動会（9月）、文化祭作品展（11月）に招待し、子育て支援を図った。

### 小学校との連携・交流

2010年3月1日、枚方市立樟葉北小学校のご理解とご協力のもと、2年生児童と交流会を実施した。本園年長児が就学への期待を高め、且つ異年齢児による交流を深め「人間関係・コミュニケーション」の育成に教育効果があった。

### ホームページの更新（情報公開）

以下の通り、ホームページ更新を行ない「情報公開」を行った。

- |                                   |          |
|-----------------------------------|----------|
| 1．学校評価（2008年度版）の新規作成・公開           | 2009年4月  |
| 2．感動の声ページを更新                      | 2009年5月  |
| 3．保護者交付の補助金ページ更新・写真購入申込ページの新規作成   | 2009年5月  |
| 4．幼稚園概要・情報公開ページ新規作成（財務状況・事業報告等公開） | 2009年7月  |
| 5．園児募集要項（2010年版）ページ更新             | 2009年9月  |
| 6．ホームページ・トップページ、リニューアル            | 2009年9月  |
| 7．入園説明会・園庭開放ページ更新                 | 2009年10月 |
| 8．トップページお知らせ・未就園児教室ページ更新          | 2010年2月  |
| 9．入園説明会・園庭開放ページ更新                 | 2010年2月  |
| 10．沿革ページ更新                        | 2010年2月  |

[ 2009年度「学校評価・自己評価」並びに「事業活動報告」を2010年4月に公開の予定 ]

## インフルエンザ罹患による「学級単位の臨時休業措置」による、給食費の返戻

2008年度までは、給食単価に実食を乗じて「給食費」として徴収していたが、2009年度より年間給食数を算出し、保護者負担軽減を含め少額の徴収、一括全額徴収とした所であるが、今般の「インフルエンザ罹患による学級閉鎖」は、本年度からの処理変更後の不測の事態となった。給食費の取り扱いとその実態について考察し、給食業者（納入業者）への発注段階においても事前に発注変更を行い、法人としても損益が発生しておらず、併せて当該学級園児に受益が発生していないことより、「返金すべきが本来」と判断した。因って合計金員、33,480円を該当者に返金した。（P11、インフルエンザ罹患状況参照）

## 2009年度通園バス運行

大型幼児専用バス（ライオン仕様・いぬ仕様）2台、小型幼児専用バス（普通車ライオン仕様）1台、合計3台の通園バスにより、各バス2方面（コース）合計6方面（コース）の路線を編成し運行した。大阪府大学私学課の指導による「通園バス園児乗車最大時間40分」を厳守し、園児に長時間乗車に対する負担のなきよう各路線最大乗車時間を39分、最小乗車時刻を34分、平均乗車時間を36分の路線編成し運行した。（乗車時間とは、最初に乗車した園児が幼稚園に到着するまでの時間をいう。従って乗車園児の無い運行時間は乗車時間に含まず）通園バス利用児数は、114名（2010年3月1日時点）となった。

## 2009年度給食実施状況・食育の取り組み状況

年間、96回の給食を供給した。入園・進級当初（4月）は「集団で食する食事」としての安定に重点をおき、食べやすい環境を調えメニューは「パン給食と牛乳」を中心とし、5月より米飯給食の供給をはじめた。また、米飯給食は、アレルギー対応食を個別に供給し、「食の安全」を確保し、経常的に「無農薬米・無農薬野菜」を食材として採用した。また、特別食として「ちらし寿司」「きつねうどん」、揚げそばの中華あんかけ、スパゲティ等メニューの充実に努めた。園児にとって和やかでおいしい給食の位置づけが成された。また「食育」の一環として、栄養の三要素の話等、食育に関する指導を行ない、食に対する意識の向上に努めた。さらに、「餅つき（＝お餅を食す）」、「芋ほり（＝収穫の喜びと同時に蒸かし芋を食す）」、「雑祭り（＝由来を知り食す）」等の行事を通して園児の食への関心を深める指導を実践した。

2009年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	7	11
5	4	5	9	12	2	4	6
6	5	7	12	1	3	5	8
7	2	4	6	2	4	6	10
8	0	0	0	3	4	5	9
9	4	6	10	計	41	55	96
10	4	6	10		42.7%	57.3%	100%

### 給食費徴収に関する特記事項

2008年度は、1食単価270円とし食数に応じ個別に徴収としていたが、2009年度より年間徴収額を24,840円〔年間92食〕と算定し、一ヶ月2,070円を徴収した。この算定基準は、年度により行事等の教育日程の事情が変動し、給食供給回数が若干の差異が生じること、また給食供給日の園児の欠席数を配慮し保護者負担を少額に抑え、且つ給食費徴収の合理化を図る趣旨を以て実行した。2009年度の供給実績（または年度当初の予定）から、一人あたりの年間給食を食した費用（A）は、給食単価270円×96食=25,920円、徴収金額（B）は、2,070円×12カ月=24,840円となり、1,080円（B-A）の差異が保護者負担軽減の実績と評価できる。尚、この差異に対する費用・経費負担については、本園において限りない欠席園児数の掌握等による発注努力と給食供給業者の理解のもと、保護者負担を少額に抑えた金員額がそのままの負担額と一致するものではないものとなった。

### 園児制服の完全変更

2005年度に制服変更を協議決定し、2006年度より旧園児制服より新制服へと変更した。この制服変更について保護者制服購入費用の負担を軽減する趣旨を以て、旧制服の着用の猶予期間を三カ年設定した。2008年度末を以てかかる旧制服着用猶予期間が終了し、2009年度より園児制服が完全に新規制服の着用となった。

以上

文責 / 学校法人山口学園副理事長・くずは青葉幼稚園園長 山口尚志

2009年度・平成21年度 学校法人山口学園くずは青葉幼稚園の  
教育事業について以上の通り報告する。

2010年・平成22年 4月1日

**くずは青葉幼稚園**

園長 山口尚志 公印

**学校法人山口学園**

理事長 山口 亨 公印

*Yamaguchi Gakuen Educational Foundation*

学校法人山口学園

## くずは青葉幼稚園

<http://www.k-aoba.ed.jp/>

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072 - 857 - 8221 FAX 072 - 856 - 5944

Mail address [info@k-aoba.ed.jp](mailto:info@k-aoba.ed.jp)

2010年4月1日発行